

特集ワイド

ノンフィクション作家の佐野眞一さんが06年に書いた「ルポ・下町社会」で取り上げ、「貧困」「下層」のマイナスイメージを掲げられている東京都足立区。汚名返上イメージアップを図ろうと、治安や自衛防対策に力を入れている。足立区の取り組みから、格差にあえぐ日本の今後の処方せんは見つかるだろうか。【小松よしほ】

89年に起きた、被爆の女子高生コンクリート詰め殺人事件の鮮烈な印象がつきまとう足立区。その舞台となった地下鉄千代田線の綾瀬駅周辺に暗く荒れたイメージは全くない。駅前には高層に沿って商店が建ち並び、大型スーパーや大きな公園もある。近くに住む50代の主婦は「(治安の悪さを)実感したことはない」と言い、ベビーカーを押す30代の主婦も「治安が悪いと言われるが、そうでもないと思う」と話した。

「イメージ」について「治安が悪い」と回覧した人は31・7割。「公園が多い街」と同様で1位だった。実際の、足立区の刑法犯認知件数は23区中で04年が30位、05年2位、06年1位になってから、08年まで3年連続ワーストワン。09年11月未現在でトップで、4年連続となるのは必至の状況だ。



足立区

豊かで安全に

イメージアップ大作戦



豊かになるが問題となっていた公園ではモスケット草とよばれる高木草の発生が懸念され、北洲公園で09年5月21日、園内清掃や公園のトイレを巡回する作業員。来年度からは竹の森、西新井地区もパトロールが強化される。小松よしほ

ところが、区が09年9月に区民に行った調査では、「区

豊かで安全にイメージアップ大作戦

しまったというふうなもの。もちろん犯罪は犯罪ですが、「治安が悪い」と評高に言われるほどではどうかと話す。聞き直してはみるも、一度ついた印象は覆してもいよう。そこで、犯罪を起すににくいきれいな街づくりを、ニューヨークの刑務官に倣い「ビューティフル・ウィンドウ」運動を始めた。ごみやたばこの吸い殻、落書きなどのないきれいな街では犯罪を起すににくいという専門家の意見を参考に、住民と協力し、街頭に花を植えたり、禁煙区域を設けたり、パトロールを

初に受け取れる行政の窓口は多いんです。連携を密にして、見逃さず専門機関につなげていきたい」と話す。国保の手続きに訪れた60代女性が、ふと「死にたい」ともらしたことから、対応した職員が福祉事務所に連絡。担当者が女性の自宅を説得したこともあった。女性からは「後「死ぬのを思い」ともあって「ありがとう」との電話があったという。マイナスイメージを払拭しようとする施策を打ち出す足立区。近藤赤生区長はどんな思いを持っているのか。

美化するなどしている。パトロールを行うのは、第一総合警備隊から派遣されている警備員。2人1組で、綾瀬駅周辺の東西南北約700mの範囲を午後3時10時の間、巡回する。まず駅前の交番に立ち寄り、ひったくりや不審者などの情報を確認。この日はなかった。注意して見回るのは、自転車置き場や駐車場、公園などだ。

「05年のつばはエクスプレスト、08年の日暮里・舎人ライナー開通で、課題だった交通の便は解消した。次なる課題は治安と聞いています。『治安が悪い』と答えた人が3割で最多だったことはショックだった」という。『区外の人のイメージで、区民はそう思っていないと思っていたので』。それが「体感治安を良くしなければ、とふんぎった一番のきっかけ」といふ。先の調査結果を受け、20、30代の若年層を対象に「なぜ



足立区大町3丁目の住宅地には犯罪抑止効果があるという黄色防犯灯が設置された。08年12月、井藤康彰撮影



足立区大町3丁目の住宅地には犯罪抑止効果があるという黄色防犯灯が設置された。08年12月、井藤康彰撮影

「治安が悪い」と思っのか」といふ追跡調査も行った。また集計途中だが「ただ何となく」という回答が約半数、「マスコミ報道で」という回答が約3割という。マスコミに「危ない街」と書かれる影響は大きいと区長は話す。足立区は生活保護や就業援助を受ける世帯が多いことでも知られる。「足立区のマイナスの根幹は、生活保護の家庭が自分の代だけで終わらず、2代、3代続くこと。苦労しなくても、ダメなら生活保護受けたいじゃないか」という考えの人も一部にはい